

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：山里 勝己	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：ka.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	1~2	研 414	講義終了後

1. 授業の概要

修士論文作成に向けての指導を行う。研究の意味、研究者のありかたなどをまずは議論する。それからプロポーザルの作成に向けた基礎的なリサーチ、資料収集、先行研究の調査・分析、文献一覧作成、テーマを選択するための学生による報告と双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。

2. 到達目標

修士課程レベルの研究手法、文献収集、文献分析、先行研究の評価を行い、修士論文テーマを選択する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Introduction
- 第 2 週 Research and scholarship
- 第 3 週 Research and scholarship
- 第 4 週 Bibliography
- 第 5 週 Bibliography
- 第 6 週 Topic and thesis
- 第 7 週 Topic and thesis
- 第 8 週 A shorty paper due
- 第 9 週 Presentations by students
- 第 10 週 Presentations by students
- 第 11 週 Tentative titles and works to be discussed in the MA thesis
- 第 12 週 In-office conferencing
- 第 13 週 In-office conferencing
- 第 14 週 In-office conferencing
- 第 15 週 Presentations by students

4. テキスト・参考文献

- (1) *MLA Handbook, Chicago Manual* 等の論文執筆に必要なツール
- (2) 修士論文の対象となる文学作品等

5. 準備学習

特にないが、研究者としての基本的な要件などを記述した文献を読んでおくことが望ましい。

6. 成績評価の方法

- ・リサーチ、*MLA Handbook* の理解 30点
- ・オーラル・プレゼンテーション 20点
- ・リサーチ・ペーパー 50点
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	通年	5	研 512	月曜日 6 時限

1. 授業の概要

研究テーマを決定し、実証的データを収集できるようにする。修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。

2. 到達目標

- (1) 研究テーマを決定する。
- (2) データの収集方法と分析方法を決定する。
- (3) 修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に十分に備える。

3. 授業の計画と内容

(前期)

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 第 1 週 | オリエンテーション |
| 第 2 週 | リサーチの種類や果たす役割や重要性について
テーマについて考える |
| 第 3 週 | リサーチ・デザインについて |
| 第 4 週 | 質的研究について (1) |
| 第 5 週 | 質的研究について (2) |
| 第 6 週 | 量的研究について (1) |
| 第 7 週 | 量的研究について (2) |
| 第 8 週 | テーマの選択について |
| 第 9 週 | テーマの決定 |
| 第10週 | リサーチ・プロポーザル下書き(データ収集方法) |
| 第11週 | リサーチ・プロポーザル下書き作成 (データ分析方法) |
| 第12週 | リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献) |
| 第13週 | リサーチ・プロポーザル下書き作成 (文献) |
| 第14週 | リサーチ・プロポーザル下書き作成 (序論) |
| 第15週 | リサーチ・プロポーザル下書き完成、テーマ発表の準備 |

(後期)

- | | |
|-------|-------------|
| 第 1 週 | オリエンテーション |
| 第 2 週 | 文献研究の発表 (1) |
| 第 3 週 | 文献研究の発表 (2) |
| 第 4 週 | データ収集方法の検討 |
| 第 5 週 | データ収集方法の決定 |
| 第 6 週 | データ収集の準備 |
| 第 7 週 | データ収集と倫理 |
| 第 8 週 | 文献発表 (3) |
| 第 9 週 | 文献発表 (4) |
| 第10週 | 文献発表 (5) |
| 第11週 | データ収集 |
| 第12週 | データ収集 |
| 第13週 | データ収集 |
| 第14週 | データ収集 |
| 第15週 | 1年次発表の準備と評価 |

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

随時指定

5. 準備学習

事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。

6. 成績評価の方法

リサーチ・プロポーザルやゼミへの取り組みで評価。

7. 履修の条件

事前に研究テーマについて概ね指導教員と相談をしておく。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員:住江 淳司	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス:j.sumie@meio-u.ac.jp 研究室電話番号:0980-51-1228	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研 505	火2・木1

1. 講義内容

まず、修士論文のテーマを定める。そのテーマに即した先行研究に関する文献を集める方法から始め、図書館のレファレンスコーナーを活用する。演習Iでは研究史を作成させるところまでを指導する。

2. 到達目標

研究史を完成させることを、まず演習Iの到達目標とする。

3. 講義予定

第1週	オリエンテーション	第16週	1次資料の探索指導3
第2週	文献探索指導1	第17週	1次資料の探索指導4
第3週	文献探索指導2	第18週	3次資料の探索指導1
第4週	文献探索指導3	第19週	3次資料の探索指導2
第5週	文献探索指導4	第20週	3次資料の探索指導3
第6週	文献探索指導5	第21週	3次資料の探索指導4
第7週	文献探索指導6	第22週	研究史の作成1
第8週	修士論文テーマ発表の準備	第23週	研究史の作成2
第9週	テーマ発表の際の指摘事項確認	第24週	研究史の作成3
第10週	2次資料の分析1	第25週	研究史の作成4
第11週	2次資料の分析2	第26週	研究史の作成5
第12週	2次資料の分析3	第27週	研究史の作成6
第13週	2次分析の資料4	第28週	研究史と小括の作成1
第14週	1次資料の探索指導1	第29週	研究史と小括の作成2
第15週	1次資料の探索指導2	第30週	研究史と小括の作成3

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

平野 健一郎 『国際文化論』 東京大学出版会、2008年。

【参考文献】

特になし。

5. 準備学習

事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。

6. 評価方法

論文作成段階における出来具合で評価する。具体的には、オリジナリティ、研究史の完成度、本文の構成、注記の付け方、参考文献の完成度にそれぞれ20点の割合で評価する。

7. 履修要件

中南米の文化事象に関することをテーマにしていること。

先行研究の外国語（ポルトガル語、スペイン語、英語）文献を読めるだけの語学力が必要である。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	501	月曜日 6 時限、木曜日 6 時限

1. 授業の概要

理論言語研究の対象としての言語、特に日本語と中国語の統語構造、意味解釈についての知識を習得する。

2. 到達目標

修士論文で取り上げる内容を決定し、論文概要を作成する。

3. 授業の計画と内容

前学期		後学期	
第 1 週	オリエンテーション	第 1 週	言語の統語的分析 (1)
第 2 週	日本語を学ぶ際の困難さ：	第 2 週	言語の統語的分析 (2)
第 3 週	日中比較統語構造 (1)	第 3 週	言語の統語的分析 (3)
第 4 週	日中比較統語構造 (2)	第 4 週	言語の統語的分析 (4)
第 5 週	日中比較統語構造 (3)	第 5 週	言語の統語的分析 (5)
第 6 週	日中比較統語構造 (4)	第 6 週	言語の統語的分析 (6)
第 7 週	日中比較統語構造 (5)	第 7 週	修士論文のテーマ決定に向けて (1)
第 8 週	可能性のある修士論文のテーマ	第 8 週	修士論文のテーマ決定に向けて (2)
第 9 週	修士論文テーマ計画発表会にむけて	第 9 週	修士論文のテーマ決定に向けて (3)
第 10 週	語順と意味解釈 (1)	第 10 週	修士論文のテーマ決定に向けて (4)
第 11 週	語順と意味解釈 (2)	第 11 週	リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (1)
第 12 週	語順と意味解釈 (3)	第 12 週	リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (2)
第 13 週	語順と意味解釈 (4)	第 13 週	リサーチ・ペーパーとしての修士論文 (3)
第 14 週	語順と意味解釈 (5)	第 14 週	論文概要作成 (1)
第 15 週	前期のまとめと後期への展望	第 15 週	論文概要作成 (2)

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

- ① 久野暲(1973)『日本文法研究』大修館書店
- ② 野田尚史(1996)『「は」と「が」』くろしお出版
- ③ 徐烈炯・劉丹青(2017)『主題の構造と機能』日中言語文化出版社

【参考文献】

講義中に随時紹介するが、主なものを挙げておく。

- ① 劉丹青(2013)『語順類型論と介詞理論』日中言語文化出版社
- ② Huang, James, C.-T., Y.-H. Audrey Li, Yafei Li (2009) *The syntax of Chinese*. Cambridge University Press.
- ③ Shibatani, Masayoshi (1990) *The Languages of Japan*. Cambridge University Press.

5. 準備学習

毎回の授業でテキストの担当範囲を決め、内容を要約し問題点を指摘するので、予め準備しておくこと。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション	40 点
期末報告レポート (この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する)	40 点
修士論文研究計画テーマ発表会	10 点
論文概要発表会	10 点
	合計 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1233	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	3	研 510	火 3、木 3

1. 授業の概要

- ①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関係する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。
- ②研究方法の検討と確定、資料収集を進める。
- ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。

2. 到達目標

- ①研究テーマを決定する。
- ②テーマに関する資料を収集し、分析方法を決定する。
- ③修士論文の概要を作成する。

3. 授業の計画と内容

(前期)

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 学術論文とは何か
- 第 3 週 修士論文とは何か
- 第 4 週 研究テーマの定め方①
- 第 5 週 研究テーマの定め方②
- 第 6 週 テーマの絞り方①
- 第 7 週 テーマの絞り方②
- 第 8 週 文献探索指導①
- 第 9 週 文献探索指導②
- 第 10 週 文献探索指導③
- 第 11 週 テーマの決定
- 第 12 週 研究方法の決定
- 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成
- 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成（序論）
- 第 15 週 テーマ発表の準備

(後期)

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり
- 第 3 週 文献研究の発表①
- 第 4 週 文献研究の発表②
- 第 5 週 資料収集方法の検討
- 第 6 週 資料収集方法の決定
- 第 7 週 資料収集の報告①
- 第 8 週 資料収集の報告②
- 第 9 週 文献研究の発表③
- 第 10 週 文献研究の発表④
- 第 11 週 資料収集と分析 a
- 第 12 週 資料収集と分析 b
- 第 13 週 資料収集と分析 c
- 第 14 週 1年次発表の準備①
- 第 15 週 1年次発表の準備②

4. テキスト・参考文献

随時指定。

5. 準備学習

事前に演習で報告する課題を指導教員に提出する。

6. 成績評価の方法

リサーチ・プロポーザル、ゼミへの取り組みで評価します。

7. 履修の条件

事前に、研究関心やテーマについて指導教員と相談をしておく。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習 I			担当教員：李 鎮榮	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture I			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	5	研 213	月 3、木 3

1. 授業の概要

- ①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。
- ②研究方法の検討と確定。
- ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。
- ④執筆生産者としての基本的な素養を身につける。

2. 到達目標

- ①テーマに関する資料を収集し、分析方法を決定する。
- ②前期までに論文の顔である序論を完成し、後期までに本文の作成に取り組む。

3. 授業の計画と内容

(前期)

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 学術論文とは何か
- 第 3 週 修士論文とは何か
- 第 4 週 研究テーマの定め方①
- 第 5 週 研究テーマの定め方②
- 第 6 週 テーマの絞り方①
- 第 7 週 テーマの絞り方②
- 第 8 週 文献探索指導①
- 第 9 週 文献探索指導②
- 第 10 週 文献探索指導③
- 第 11 週 テーマの決定
- 第 12 週 研究方法の決定
- 第 13 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成
- 第 14 週 リサーチ・プロポーザル下書き完成 (序論)
- 第 15 週 テーマ発表の準備

(後期)

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 修士論文テーマ発表会のふりかえり
- 第 3 週 文献研究の発表①
- 第 4 週 文献研究の発表②
- 第 5 週 資料収集方法の検討
- 第 6 週 資料収集方法の決定
- 第 7 週 資料収集の報告①
- 第 8 週 資料収集の報告②
- 第 9 週 文献研究の発表③
- 第 10 週 文献研究の発表④
- 第 11 週 資料収集と分析 a
- 第 12 週 資料収集と分析 b
- 第 13 週 資料収集と分析 c
- 第 14 週 1年次発表の準備①
- 第 15 週 1年次発表の準備②

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

櫻井哲夫『近代の発明』、福井勝義『認識と文化』など随時紹介する。

【参考文献】

随時紹介する。

5. 準備学習

文献を徹底的に読み、理解しておくこと。

6. 成績評価の方法

達成度、論文のプロポーザル、貢献度を見て判断する。

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：山里 勝己	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：ka.yamazato@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1125	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	1~2	研 414	講義終了後
<p>1. 講義内容</p> <p>言語文化演習Ⅰに引き続き、修士論文作成の指導を行う。テーマのさらなる絞り込み、方法論の確定、参考・引用文献一覧の厳密な検討、資料収集、先行研究の批判的検討、論文執筆を、双方向のディスカッションを中心とした指導を行う。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士課程レベルの研究手法、文献収集、文献分析、先行研究の評価を行い、修士論文テーマを具体的に絞り込む。</p> <p>3. 授業の内容と計画</p> <p>第 1 週 Introduction 第 2 週 Discussion of the text/works to be discussed in the thesis 第 3 週 Discussion of the text/works to be discussed in the thesis 第 4 週 Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis 第 5 週 Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis 第 6 週 Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis 第 7 週 Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis 第 8 週 Writing the thesis; issues/problems in writing the thesis 第 9 週 Submission of the first draft; issues in writing the thesis 第 10 週 Review of the first draft and revision/discussion of issues 第 11 週 Writing the thesis 第 12 週 Writing the thesis 第 13 週 Writing the thesis 第 14 週 Writing the thesis 第 15 週 Presentation and final review 第 16 週～30 週</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>修士論文の対象となる文学作品等と先行研究一覧</p> <p>5. 準備学習</p> <p>修士論文で取りあげる作品を読破しておくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーラル・プレゼンテーション 20点 ・修士論文 80点 合計 100点満点 <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>自立したリサーチ、誠実な情報操作、国際基準に従った論文作成、独創的な論文を期待したい。</p>					

科目名	言語文化研究演習 II			担当教員：渡慶次 正則			
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー		
2	2	通年	5	研 512	月曜日 6 時限		
<p>1. 授業の概要 修士論文のリサーチ・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。</p> <p>2. 到達目標 (1) 修士論文中間発表や最終発表に備える。 (2) 修士論文を完成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(前期)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第 3 回 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第 4 回 データ収集と経過報告</p> <p>第 5 回 データ収集終了</p> <p>第 6 回 データの分析</p> <p>第 7 回 データの分析</p> <p>第 8 回 調査方法の下書き</p> <p>第 9 回 調査結果の下書き</p> <p>第 10 回 文献の下書き</p> <p>第 11 回 文献の下書き</p> <p>第 12 回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第 13 回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第 14 回 中間発表の準備</p> <p>第 15 回 講義のまとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(後期)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 中間発表の反省</p> <p>第 3 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 4 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 5 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 6 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 7 回 序論の完成</p> <p>第 8 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 9 回 修士論文のスタイル確認</p> <p>第 10 回 結論の下書き</p> <p>第 11 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 12 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 13 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 14 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 15 回 修士論文全体の推敲、完成</p> </td> </tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献 【テキスト】 特になし。 【参考文献】 随時指定</p> <p>5. 準備学習 事前に修士論文の原稿を指導教員に送付する。</p> <p>6. 成績評価の方法 修士論文とその作成過程で総合的に評価。</p> <p>7. 履修の条件 言語文化研究演習 I を終了する事。</p> <p>8. その他 特になし</p>						<p>(前期)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第 3 回 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第 4 回 データ収集と経過報告</p> <p>第 5 回 データ収集終了</p> <p>第 6 回 データの分析</p> <p>第 7 回 データの分析</p> <p>第 8 回 調査方法の下書き</p> <p>第 9 回 調査結果の下書き</p> <p>第 10 回 文献の下書き</p> <p>第 11 回 文献の下書き</p> <p>第 12 回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第 13 回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第 14 回 中間発表の準備</p> <p>第 15 回 講義のまとめ</p>	<p>(後期)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 中間発表の反省</p> <p>第 3 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 4 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 5 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 6 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 7 回 序論の完成</p> <p>第 8 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 9 回 修士論文のスタイル確認</p> <p>第 10 回 結論の下書き</p> <p>第 11 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 12 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 13 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 14 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 15 回 修士論文全体の推敲、完成</p>
<p>(前期)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 データの収集方法と分析方法について</p> <p>第 3 回 データ収集開始及び経過報告</p> <p>第 4 回 データ収集と経過報告</p> <p>第 5 回 データ収集終了</p> <p>第 6 回 データの分析</p> <p>第 7 回 データの分析</p> <p>第 8 回 調査方法の下書き</p> <p>第 9 回 調査結果の下書き</p> <p>第 10 回 文献の下書き</p> <p>第 11 回 文献の下書き</p> <p>第 12 回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (1)</p> <p>第 13 回 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲 (2)</p> <p>第 14 回 中間発表の準備</p> <p>第 15 回 講義のまとめ</p>	<p>(後期)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 中間発表の反省</p> <p>第 3 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 4 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 5 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 6 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 7 回 序論の完成</p> <p>第 8 回 修士論文の執筆と修正</p> <p>第 9 回 修士論文のスタイル確認</p> <p>第 10 回 結論の下書き</p> <p>第 11 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 12 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 13 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 14 回 最終的な修正と推敲</p> <p>第 15 回 修士論文全体の推敲、完成</p>						

科目名	言語文化研究演習 II			担当教員：住江 淳司	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1228	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研 505	火 2・金 2

1. 授業の概要

修士論文の研究史を完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。

2. 到達目標

修士論文を完成させ、口頭試問に合格できる準備を行う。

3. 講義予定

第 1 週	オリエンテーション	第 1 6 週	1次資料の探索指導 3
第 2 週	文献探索指導 1	第 1 7 週	1次資料の探索指導 4
第 3 週	文献探索指導 2	第 1 8 週	3次資料の探索指導 1
第 4 週	文献探索指導 3	第 1 9 週	3次資料の探索指導 2
第 5 週	文献探索指導 4	第 2 0 週	3次資料の探索指導 3
第 6 週	文献探索指導 5	第 2 1 週	3次資料の探索指導 4
第 7 週	文献探索指導 6	第 2 2 週	本文の作成 1
第 8 週	修士論文テーマ発表の準備	第 2 3 週	本文の作成 2
第 9 週	テーマ発表の際の指摘事項確認	第 2 4 週	本文の作成 3
第 1 0 週	2次資料の分析 1	第 2 5 週	本文の作成 4
第 1 1 週	2次資料の分析 2	第 2 6 週	注記の作成 5
第 1 2 週	2次資料の分析 3	第 2 7 週	注記の作成 6
第 1 3 週	2次分析の資料 4	第 2 8 週	参考文献と小括の作成 1
第 1 4 週	1次資料の探索指導 1	第 2 9 週	参考文献と小括の作成 2
第 1 5 週	1次資料の探索指導 2	第 3 0 週	修士論文の最終チェック 3

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

小池洋一著 『図説ラテンアメリカ』, 日本評論社, 1999年。

【参考文献】

国本伊代・中川文雄編著 『ラテンアメリカ研究への招待』, 新評論, 1997年。

5. 準備学習

事前に演習で発表する課題を指導教員に送付する。

6. 評価方法

論文作成上の各段階の進捗状況で評価する。

具体的には、研究史の出来具合、構成、理論面の構築度、注記、参考文献などそれぞれに20点の割合で評価する。

7. 履修要件

中南米の文化事象に関することをテーマにしていること。

中南米の文化を扱うには、必要な外国語[ポルトガル語、スペイン語、英語]の読解力に関する知識があること。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	2	通年	1	501	月曜日6時限、木曜日6時限

1. 授業の概要

論文概要に基づいて修士論文を執筆し、完成させるまで指導を行う。

2. 到達目標

日本語の助詞に対する理解を深化すると共に、中国における日本語指導、特に助詞指導のあり方を見直し、理論言語学的枠組みによる日本語研究に基づいて、日本語助詞のより効果的な指導法を考案することを目標とする。

3. 授業の計画と内容

前学期

- 第1回 オリエンテーション：演習Ⅰの振り返り
- 第2回 先行研究の批判的検討（1）
- 第3回 先行研究の批判的検討（2）
- 第4回 先行研究の批判的検討（3）
- 第5回 先行研究の批判的検討（4）
- 第6回 更なるデータ収集、アンケート（1）
- 第7回 更なるデータ収集、アンケート（2）
- 第8回 更なるデータ収集、アンケート（3）
- 第9回 データの分析（1）
- 第10回 データの分析（2）
- 第11回 データの分析（3）
- 第12回 修士論文の主な主張決定（1）
- 第13回 修士論文の主な主張決定（2）
- 第14回 中間発表会にむけて（1）
- 第15回 中間発表会にむけて（2）

後学期

- 第1回 修士論文作成（1）：章構成
- 第2回 修士論文作成（2）：先行研究批判
- 第3回 修士論文作成（3）：テーマ確認
- 第4回 修士論文作成（4）：新たな主張
- 第5回 修士論文作成（5）：考えられる反論
- 第6回 修士論文作成（6）：主張の強化
- 第7回 修士論文作成（7）：主張の更なる検証
- 第8回 修士論文作成（8）：データ検討
- 第9回 修士論文作成（9）：データ確認
- 第10回 修士論文作成（10）：1章完成
- 第11回 修士論文作成（11）：2章完成
- 第12回 修士論文作成（12）：3章完成
- 第13回 修士論文作成（13）：序論・結論完成
- 第14回 修士論文確認：参考文献、注釈確認
- 第15回 修士論文最終確認、提出

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

授業において適宜紹介する。

【主要参考文献】

- ① Kuno, Sumumu (1973) *The Structure of the Japanese Language*. Cambridge, MA: MIT Press.
- ② Shibatani, Masayoshi, Shigeru Miyagawa, Hisashi Noda (2017) *Handbook of Japanese Linguistics*. Berlin, Mouton De Gruyter.
- ③ 野田尚史(1996) 『「は」と「が」』東京：くろしお出版

5. 準備学習

毎回の授業で修士論文執筆の進捗状況を確認するので、確実かつ着実に進めておくこと。

6. 成績評価の方法

クラスでの修士論文執筆の経過報告	20点
修士論文の内容と最終審査	40点
最終発表会	40点
	合計 100点

7. 履修の条件

言語文化研究演習Ⅰを履修済みであること。

8. その他

特になし。

科目名	言語文化研究演習Ⅱ			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Seminar in Language and Culture II			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1233	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	3	研510	火3・木3

1. 授業の概要

言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。
修士論文中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。

2. 到達目標

- ①修士論文中間発表や最終発表に備える。
- ②修士論文を完成する。

3. 授業の計画と内容

(前期)

- | | |
|------|---------------------|
| 第1週 | オリエンテーション |
| 第2週 | 資料の収集方法と分析方法について |
| 第3週 | 資料収集開始及び経過報告 |
| 第4週 | 資料収集と経過報告 |
| 第5週 | 資料収集の総括 |
| 第6週 | 資料の分析① |
| 第7週 | 資料の分析② |
| 第8週 | 資料調査の下書き① |
| 第9週 | 資料調査、文献の下書き |
| 第10週 | 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲① |
| 第11週 | 調査方法、調査結果、文献、序論の推敲② |
| 第12週 | 修士論文中間発表の準備① |
| 第13週 | 修士論文中間発表の準備② |
| 第14週 | 修士論文中間発表の準備③ |
| 第15週 | 演習Ⅱ(前期)のまとめ |

(後期)

- | | |
|------|----------------|
| 第1週 | オリエンテーション |
| 第2週 | 修士論文中間発表のふりかえり |
| 第3週 | 修士論文の執筆と検討① |
| 第4週 | 修士論文の執筆と検討② |
| 第5週 | 修士論文の執筆と検討③ |
| 第6週 | 序論の完成 |
| 第7週 | 修士論文の執筆と検討④ |
| 第8週 | 修士論文の執筆と検討⑤ |
| 第9週 | 修士論文の執筆と検討⑥ |
| 第10週 | 修士論文の執筆と検討⑦ |
| 第11週 | 最終的な修正と推敲 a |
| 第12週 | 最終的な修正と推敲 b |
| 第13週 | 最終的な修正と推敲 c |
| 第14週 | 修士論文全体の推敲 |
| 第15週 | 修士論文全体の推敲、完成 |

4. テキスト・参考文献

随時指定

5. 準備学習

事前に修士論文の原稿(各章、各節)を指導教員に提出する。

6. 成績評価の方法

修士論文の内容とその作成過程で総合的に評価する。

7. 履修の条件

言語文化研究演習Ⅰを修了していること。

8. その他

特になし。

科目名	言語学特論 I			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Linguistics I			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2-3	研 501	月曜日 6 限、木曜日 6 限

1. 授業の概要

言語における基本的な考え方を理解し、言語現象に対するアプローチ方法を学ぶ。
理論研究の対象としての言語に関する知識、あるいは理論言語学の分野で問題になる様々な現象の中からテンス・アスペクト現象を取り上げ、日本語動詞のアスペクトを分析する。

2. 到達目標

理論言語学研究に関する方法論を身につけ、日本語の言語の諸現象に注目し、関心と理解を深める。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション：動詞のテンス・アスペクトの類型論
- 第 2 週 日本語動詞の 1 文類
- 第 3 週 日本語動詞のテンスとアスペクト Part 1
- 第 4 週 日本語動詞のテンスとアスペクト Part 2
- 第 5 週 「～する」の形と「～している」の形 Part 1
- 第 6 週 「～する」の形と「～している」の形 Part 2
- 第 7 週 「～した」と「～していた」
- 第 8 週 「動詞＋している」の意味
- 第 9 週 すがたともくろみ
- 第 10 週 「している」の意味とその実現する条件
- 第 11 週 「してくる、していく」の意味とその実現する条件
- 第 12 週 「してしまう」の意味とその実現する条件
- 第 13 週 「してある」の意味とその実現する条件
- 第 14 週 「しておく」の意味とその実現する条件
- 第 15 週 アスペクトの観点から見た動詞の種類とその性格
- 第 16 週 まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

金田一晴彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房

【参考文献】

授業において適宜紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション 50 点
 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50 点
 合計 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	言語学特論Ⅱ			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Linguistics II			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2-3	研 501	月曜日 6 限, 木曜日 6 限

1. 授業の概要

理論言語学の分野で問題になる様々な現象の中からテンス・アスペクト現象を取り上げ、分析する。言語理論、特に意味論における基本的な考え方を理解し、言語現象に対するアプローチ方法を学ぶ。

2. 到達目標

言語理論研究、特に意味論研究に関する方法論を身につけ、日本語をはじめとする世界の様々な言語の諸現象を比較・対照し、共通点、相違点を見つけ、関心を深める。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 現代日本語のアスペクト・テンス研究史
- 第 2 週 テクストのタイプとレベル
- 第 3 週 単語レベルのアスペクト・テンス体系
- 第 4 週 完成相と継続相の対立
- 第 5 週 パーフェクト相
- 第 6 週 反復相
- 第 7 週 テンスとテキスト：テキストの2つのタイプ
- 第 8 週 テンスと時間副詞
- 第 9 週 語りのテキストにおけるテンス形式
- 第10週 ノンフィクションのテキストにおけるテンス形式
- 第11週 時間の従属複文の体系とタクシス
- 第12週 スルースタ対立とタクシス
- 第13週 アスペクトとテンスの相関性
- 第14週 時期限定系列の従属複文
- 第15週 その他の時間の従属複文
- 第16週 まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房

【参考文献】

授業において適宜紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておくこと。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション 50 点
 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50 点
 合計 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	英文学特論			担当教員：Kuckelman, Meghan	
科目名(英語)	English Literature			メールアドレス：m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 404	火 5、金 5

1. 講義内容

英文学の主要な時代を代表するイギリスの文学作品の選集を学習する。

2. 到達目標

- 英語の書く力と読む力を伸長する。
- 英語で基本的な文学専門用語を学習する。
- 主要な文学作品の学習を通して、イギリス文学を紹介する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 コースの紹介。文学とは何か、どうして学ぶのか。
- 第 2 週 中世の文学：Beowulf の抜粋
- 第 3 週 中世の文学： *Sir Gawain and the Green Knight* の抜粋
- 第 4 週 シャークスピア, “Shall I compare thee to a summer’s day?”
- 第 5 週 シャークスピア, *Henry V*
- 第 6 週 シャークスピア, *Hamlet*
- 第 7 週 啓蒙文学: Marvell, “To His Coy Mistress”; Reflection 1 due
- 第 8 週 啓蒙文学: Jonathan Swift, “A Modest Proposal”
- 第 9 週 啓蒙文学: Jonathan Swift, “A Modest Proposal”
- 第 10 週 ロマン派: William Blake, “London”; Reflection 2 due
- 第 11 週 ロマン派: William Wordsworth, “This World is Too Much With Us”
- 第 12 週 モダニズム文学: Rupert Brooke and John McCrae, WWI Poetry; Reflection 3 due
- 第 13 週 モダニズム文学: Owen, “Dulce Et Decorum Est”;
- 第 14 週 現代詩; Reflection 4 due
- 第 15 週 現代詩: Warsan Shire, “Home”
- 第 16 週 まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講読課題はインターネット上で提供する。

【参考文献】

講読課題はインターネット上で提供する。

5. 準備学習

特になし。

6. 成績評価の方法

■講義のメモ	20点
■講義への参加	20点
■振り返り用紙(4)	40点
■発表	20点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

この講義は英語のみで行われる。

class	class	米文学特論			担当教員 :	
	科目名(英語)	Survey of American Literature			E-mail:	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー

Class content

This course will explore in detail both the conventions and experimentations in English fiction writing. The course will focus on American short fiction from the 19th to the 20th century, considering authors from various socio-cultural backgrounds, including indigenous writers, and writing across multiple genres. Considerations will be given to narrative style, cultural and historical context, the ways that narrative can be used to make political statements, and graphic fiction.

Class objectives

Students will be able to:

- identify common narrative techniques and articulate the impact of those techniques on the story's theme
- identify and discuss the impact of innovations and experimentations in narrative
- using research, articulate the cultural contexts influencing the text, both from a theoretical and historical perspective
- write and give a conference-style presentation on a piece of literature

Class schedule

Class 1: Introductions

Class 2: "The Tell-Tale Heart" by Edgar Allen Poe—first person narration, American Romanticism, psychological horror

Class 3: "A Rose for Emily," by William Faulkner—American Gothic, modernism,

Class 4-5: "Sweat" by Zora Neale Hurston—African-American fiction, use of local dialect, treatment of women's domestic lives, Black culture

Class 6-7: Critical Reading: "The God in the Snake, the Devil in the Phallus: Biblical Revision and Radical Conservatism in Hurston's "Sweat" by Catherine Carter—Critical approaches to literature

Class 8: "Never Marry a Mexican" by Sandra Cisneros—Mexican American fiction, borderlands identity, feminist issues

Class 9: "Night Women," by Edwidge Danticat—Haitian-American fiction, motherhood, feminist issues, sex work

Class 10: "The Constellation of Angels" by Anita Endrezze—American Indian fiction, Native issues, feminism

Class 11: "Who's Political Here?" by Lee Maracle—American Indian fiction, feminism, radical politics and motherhood

Class 12: "Happy Endings," by Margaret Atwood—Canadian fiction, metafiction, gender issues

Class 13: "Miss Furr and Miss Skeene" by Gertrude Stein—American fiction, experimental prose, Queer studies

Class 14-15: selections from *Fun Home* by Alison Bechdel—American memoir, graphic narrative, Queer Studies

Class 16: Conclusions

Textbook

Photocopies will be provided by the instructor.

Assessment

Participation 30 points

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day's discussion

Conference Style Presentation 30 points

- Students will each give a 15-minute presentation about any text from Class 7-Class 15. The presentation should offer an interpretation of the text based on research of 1-2 secondary texts. The student should outline the researched text and apply it to the primary text in order to make the interpretation.

Conference Paper 40 points

- Students will revise the conference presentation, using the ensuing discussion and comments, into a 10-page Conference Paper.

Total: 100 points

Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should be comfortable with written and spoken English communication.

科目名	地域言語学特論 I			担当教員：石原 昌英	
科目名(英語)	Regional linguistics I			メールアドレス：ishihara@eve.u-ryukyu.ac.jp 研究室電話番号：098-895-8301 (琉球大学)	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期 (集中講義)	10	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

琉球諸島で話されている地域言語（琉球諸語とその下位方言）が消滅に危機に瀕していることについて考察する。具体的には、

- 1) なぜ消滅の危機に陥ったのか。
- 2) どのように復興するのか。
- 3) なぜ復興するのか。
- 4) 他の言語との比較

を通して消滅の危機に瀕した言語の現状把握と言語復興の研究について学ぶ。

2. 到達目標

- (1) 琉球列島で話されている地域言語の危機の状況を理解する。
- (2) 当該言語がなぜ衰退したのかを理解する。
- (3) 言語復興の意義・方法を理解する

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 琉球をめぐる言語政策 (石原 2010)
- 第 2 週 琉球諸語研究—現在と将来 (第 1 章)
- 第 3 週 「言語」と「方言」—本質主義と調査倫理をめぐる方法論的論理 (第 2 章)
- 第 4 週 日本の琉球諸語と韓国の済州語の国際標準にむけて (第 3 章)
- 第 5 週 北琉球諸語の存続力と危機度 (第 4 章)
- 第 6 週 先島の言語危機と言語存続性 (第 5 章)
- 第 7 週 琉球諸語の継承を取り戻す—ハワイ語復興運動の例から (第 6 章)
- 第 8 週 言語使用領域を維持および復興する (第 7 章)
- 第 9 週 琉球諸島における言語作成と導入 (第 8 章)
- 第 10 週 言語意識を言語使用の変革 (第 9 章)
- 第 11 週 琉球弧のメディアを巻き込む (第 10 章)
- 第 12 週 琉球諸語教育の教材を作るために (第 11 章)
- 第 13 週 うちなーぐち継承活動の動向と課題
- 第 14 週 琉球方言とその記録、再生の試み—学校教育における宮古方言教育の可能性 (かりまた 2013)
- 第 15 週 討論：なぜ琉球諸語を復興するのか

4. テキスト・参考文献

下地理則・パトリック ハイブリヒ (編著) (2014) 『琉球諸語の保持を目指して 消滅危機言語をめぐる議論と取り組み』 ココ出版。

5. 準備学習

指定された章を事前に十分に読んでおいて、コメント・疑問などをまとめておく。3 時間 x5 日間の集中講義となるので、一日に 3 章読むことになる。集中講義が始まる前に読み終えておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法

- ①教室での討論 30点
- ②各授業の感想 (3 回分をまとめて提出する) 30点
- ③レポート 40点
- 合計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	地域言語学特論II			担当教員：仲原 穰 (非常勤講師)	
科目名(英語)	Special Lectures in Area Linguistics II			メールアドレス： 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2			非常勤講師控室	講義終了後

1. 講義内容

社会言語学的視点から特定言語の多様性について研究する。地域社会, 年齢, 職業, 集団, 地位, 性別, 教養, 親密度等の要因で言語がどのように変化するかが中心的な話題となる。また, 複数の言語が接触することによって起こる現象にも触れる。

2. 到達目標

社会言語学的視点から特定言語の多様性についての研究力を養成する。

3. 講義予定

- 第 1 週 言語と方言と個人語
- 第 2 週 地域的方言
- 第 3 週 社会的方言
- 第 4 週 多言語社会
- 第 5 週 言語とアイデンティティ
- 第 6 週 言語と文化
- 第 7 週 言語のスタイル
- 第 8 週 言語と性 (中間試験)
- 第 9 週 非言語コミュニケーション
- 第 10 週 言語政策
- 第 11 週 言語教育
- 第 12 週 バイリンガル教育
- 第 13 週 国際語 (英語)
- 第 14 週 研究発表 1
- 第 15 週 研究発表 2
- 第 16 週 期末試験

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献】

Dorian, Fishman, Fasold, Gumperz, Haugen, Labov, Lambert, Trudgill 等の著作を含む洋書, 並びに同時代の和書。

5. 準備学習

上記 3 の「授業の計画の内容」に記載されている内容を事前に学習すること。

6. 評価方法

課題レポート・試験等	50点
期末報告論文	50点
合計	100点

7. 履修の条件

「地域言語学特論 I」が履修済みであること。

8. その他

学期末に提出する①タームペーパー②言語の音声・音韻や文法・語彙等の事項に関する資料の発掘及び適宜与えられるブックレポートは重要な評価の対象となる。

科目名	英文法特論			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special lectures in English Grammar			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2-3	研 501	月曜日 6 限, 木曜日 6 限

1. 授業の概要

英語の文法に関する専門的かつ網羅的な内容の文献を読み、英文法の諸問題を検討する。

2. 到達目標

研究対象としての「英文法」の諸相に関する知識、関心を深め、興味を抱く。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Verbs, *Be, have, and do*
- 第 2 週 Present Tenses, Talking about the Future
- 第 3 週 Past and Perfect Tenses, Passives
- 第 4 週 Modal Auxiliary Verbs, Infinitives, -ing forms and Past Participles
- 第 5 週 Infinitives, -ing forms and Past Participles after Nouns, Verbs, etc.
- 第 6 週 Nouns and Noun Phrases; Agreement, Determiners: *a/an* and *the*, etc
- 第 7 週 Determiners: Quantifiers, Pronouns
- 第 8 週 Adjectives, Adjectives and Adverbs,
- 第 9 週 Comparison, Prepositions
- 第 10 週 Basic Clause Types, Conjunctions Sentences and Clauses
- 第 11 週 Relative Clauses, *If*
- 第 12 週 Other Adverbial Clauses, Noun Clauses
- 第 13 週 Information Structure
- 第 14 週 Written Texts, Speech and Spoken Languages
- 第 15 週 Varieties of English
- 第 16 週 まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

Swan, Michael. (2016) *Practical English Usage*, Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press.

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

- クラスでのプレゼンテーション 50 点
- 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50 点
- 合計 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	英語音声学特論			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in English Phonetics and Phonology			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1224	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	2-3	研 501	月曜日 6 限, 木曜日 6 限

1. 授業の概要

英語音声学に関する様々な問題を検討し、専門的な知識を身につける。

2. 到達目標

英語の音声学に関する基礎的から発展的知識を身につけ、「音」あるいは「音声」に関わる様々な問題に興味を抱く。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 音と文字
- 第 2 週 子音の発音 1
- 第 3 週 子音の発音 2
- 第 4 週 母音の発音 1
- 第 5 週 母音の発音 2
- 第 6 週 意味と音
- 第 7 週 音声特徴
- 第 8 週 音節と音の並び方
- 第 9 週 音韻現象を探る
- 第 10 週 同化現象
- 第 11 週 形態音素
- 第 12 週 アクセント
- 第 13 週 リズムとイントネーション
- 第 14 週 プロソディー
- 第 15 週 音声学のまとめ
- 第 16 回 全体のまとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

川越いつえ(1999)『英語の音声を科学する』東京：大修館書店

【主要参考文献】

窪園晴夫・本間猛(2002)『音節とモーラ』東京：研究社出版

窪園 晴夫(2004)『日本語の音声』東京：岩波書店

川原繁人(2015)『音とことばのふしぎな世界——メイド声から英語の達人まで』東京：岩波科学ライブラリー

5. 準備学習

毎回の授業で指名された受講者が担当範囲を要約し、問題点を指摘するので、各自準備をしておく。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション 50 点
 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50 点
 合計 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	英語教授法特論 I			担当教員：与那覇 恵子（非常勤講師） メールアドレス：k.yonaha@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：	
科目名(英語)	Advanced TESOL Theories and Methodology I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の4技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。

2. 到達目標

本コースは将来英語教育に携わる目的をもって大学院に学ぶ学生を対象とする。本コースの到達目標は、英語教授法の分野においての知識と理解を深めることによって、その専門力を養成すると同時に教授力や英語力を習得させることである。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 シラバスや授業内容、教材についての紹介・説明
- 第2週 英語教育の専門用語 復習①
- 第3週 英語教授法の歴史 復習②
- 第4週 言語・学習・教授 ① 1章
- 第5週 言語・学習・教授 ② 1章
- 第6週 第一言語習得 ① 2章
- 第7週 第一言語習得 ① 2章
- 第8週 年齢と習得 ① 3章
- 第9週 年齢と習得 ① 3章
- 第10週 人間と学習 ① 4章
- 第11週 人間と学習 ② 4章
- 第12週 形式とストラテジー ① 5章
- 第13週 形式とストラテジー ① 5章
- 第14週 個人的要素 6章
- 第15週 まとめと小テスト

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

Principles of Language Learning and Teaching (H. Douglas Brown) Longman

Teaching English as a Second or Foreign Language. (Marianne Celce-Murcia, Editor) HEINLE & HEINLE

【参考文献】

授業内容に合わせて適切な副教材からプリント教材が提供される。

5. 準備学習

授業内容は事前に教材を読んだものとしての質疑・応答の討議形式であるため課せられた章を予習しておく。

6. 成績評価の方法

授業での質疑への応答：40% 課題・プレゼンテーション：35% 小テスト：25%

7. 履修要件

英語で書かれた専門書を教材とするため、英語の専門書が理解できる読解力が必要であり、授業内容は英語による質疑・応答の討議形式であるため英語で意見・考えを述べる能力が求められる。

8. その他

特になし

科目名	英語教授法特論Ⅱ			担当教員：与那覇 恵子（非常勤講師） メールアドレス：k.yonaha@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：	
科目名(英語)	Advanced TESOL Theories and Methodology II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の4技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。

2. 到達目標

本コースは将来英語教育に携わる目的をもって大学院に学ぶ学生を対象とする。本コースの到達目標は、英語教授法の分野においての知識と理解を深めることによって、その専門力を養成すると同時に教授力や英語力を習得させることである。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 シラバス・授業内容・評価・教材などについての紹介・説明
- 第2週 討議：社会文化的要素 ① 7章
- 第3週 討議：社会文化的要素 ② 7章
- 第4週 討議：コミュニケーション能力 ① 8章
- 第5週 討議：コミュニケーション能力 ② 8章
- 第6週 討議：言語間影響と学習言語 ① 9章
- 第7週 討議：言語間影響と学習言語 ② 9章
- 第8週 討議：第二言語習得論 ① 10章
- 第9週 討議：第二言語習得論 ② 10章
- 第10週 討議：言語習得技能 リスニング・スピーキング
- 第11週 討議：言語習得技能 リーディング・ライティング
- 第12週 討議：統合的アプローチ
- 第13週 討議：学習者に焦点を当てる
- 第14週 討議：教師の技能・教授力
- 第15週 討議：教師の技能・専門力

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

Principles of Language Learning and Teaching (H. Douglas Brown) Longman.

Teaching English as a Second or Foreign Language. (Marianne Celce-Murcia, Editor) HEINLE & HEINLE

【参考文献】

授業内容に合わせて適切な副教材からプリント教材が提供される。

5. 準備学習

授業内容は事前に教材を読んだものとしての質疑・応答の討議形式であるため課せられた章を予習しておく

6. 成績評価の方法

授業での質疑への応答：40% 課題・プレゼンテーション：35% 小テスト：25%

7. 履修要件

英語で書かれた専門書を教材とするため、英語の専門書が理解できる読解力が必要であり、授業内容は英語による質疑・応答の討議形式であるため英語で意見・考えを述べる能力が求められる。

8. その他

特になし。

科目名	英語教育評価特論			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Assessment in TESOL			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1.2	前期	10	研 512	月曜日 6 時限

1. 授業の概要

4 技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を話し合う。教室や教室外における現在の評価の問題 (issues) を取り上げる。

2. 到達目標

- (1) 英語能力測定の妥当性、信頼性、実用性についての理論と実践を理解する。
- (2) 既存の代表的な英語能力テストの分析能力を身に着ける。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 回 オリエンテーション、登録、評価についての issues (Chaps 1&2)
- 第 2 回 Kinds of tests and testing (Chap. 3)
- 第 3 回 Validity, reliability, practicality (Chaps.4&5)
- 第 4 回 Achieving beneficial backwash (Chap.6)
- 第 5 回 Stages of test development (Chap.7)
- 第 6 回 Common test techniques (Chap.8)
- 第 7 回 Testing writing (Chaps.9)
- 第 8 回 Testing oral ability (Chaps.10)
- 第 9 回 Testing reading (Chaps.11)
- 第 10 回 Testing listening (Chap.12)
- 第 11 回 Testing grammar and vocabulary (Chap. 13)
- 第 12 回 Testing overall ability (Chaps.14)
- 第 13 回 Tests for young learners (Chaps.15)
- 第 14 回 テスト ESP の評価
- 第 15 回 口頭発表 (TOEIC, TOEFL iBT, 英語検定をいずれかを分析、口頭発表する)

4. テキスト

【テキスト】

“Testing for language teachers (2nd ed.)” CPU

【参考文献】

- 「言語テスト作成法」バックマン&パーマー著、大修館書店
- 「英語教育評価論」金谷憲編、桐原書店

5. 準備学習

事前に、教科書の指定された部分を理解しておく。

6. 成績評価の方法

授業参加態度	30点
口頭発表	70点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

英語能力の高い学生の受講が望ましい。

科目名	リサーチ方法特論			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Research methodology			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1.2	後期	10	研 512	月曜日 6 時限

1. 授業の概要

社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチプロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。

2. 到達目標

- (1) 質的研究と量的研究について理解する。
- (2) リサーチプロポーザルの基本的なコンセプトを構築できる。

3. 授業の計画と内容

- | | |
|--------|--|
| 第 1 週 | オリエンテーション、登録、リサーチ・トピックと概要の発表 |
| 第 2 週 | リサーチとは、リサーチ・デザイン、リサーチ・クエスション (Chap.1,2,3) |
| 第 3 週 | 質的研究と量的研究 (Chap.4) リサーチ・プロポーザルの形式 |
| 第 4 週 | 質的研究 (1) (Chaps.8,9) |
| 第 5 週 | 質的研究 (2) (Chaps.9,10) 質的研究と量的研究の相違 (宿題提出) |
| 第 6 週 | 統計分析のプランと方法 (descriptive statistics) (Chaps.5,6) |
| 第 7 週 | 統計 (t-test, ANOVA, chi-square, Pearson's r, など) (Chaps.6,7) |
| 第 8 週 | Mixed research design |
| 第 9 週 | 量的、質的補講、論文構成 (Research Methodology) |
| 第 10 週 | 量的、質的補講、論文構成 (Results, Discussion)
質的か量的方法によるリサーチ・デザイン (宿題提出) |
| 第 11 週 | 量的、質的補講、論文構成 (Literature Review) |
| 第 12 週 | 量的、質的補講、論文構成 (Introduction, Conclusion) |
| 第 13 週 | 統計処理 (Excel, SPSS) リサーチプロポーザルの提出 (宿題提出) |
| 第 14 週 | リサーチ・プロポーザルの発表 (1) |
| 第 15 週 | リサーチ・プロポーザルの発表 (2) |

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

“Introduction to Social Research (2nd ed.)” By Keith Punch, SAGE 社

【参考文献】

「社会調査法入門」 盛山和夫著、有斐閣ブックス

5. 準備学習

テキストの課題を事前に読んでおく。

6. 成績評価の方法

- ・参加 20点
- ・質的・量的研究の相違 (課題) 10点
- ・質的か量的研究方法によるリサーチ・デザイン 20点
- ・リサーチ・プロポーザル 50点
- ・合計 100点

7. 履修の条件：

前期に、「英語教育評価特論」を受講していることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	理論言語学特論			担当教員：中村 浩一郎	
科目名(英語)	Special Lectures in Theoretical Linguistics			メールアドレス：ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	1～2	研 501	月曜日 6 限・木曜日 6 限

1. 授業の概要

理論研究の対象としての言語に関する知識・関心を深めるために、世界の諸言語の様々な現象について検討する。

2. 到達目標

理論言語学の研究に関する方法論を身につけ、世界の諸言語に関する知識・関心を深め、分析の方法論を身につける。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 はじめに：理論研究の対象としての言語: The scientific Study of Language
- 第 2 週 Diagnostics for Syntactic Structure (1)
- 第 3 週 Diagnostics for Syntactic Structure (2)
- 第 4 週 Diagnostics for Syntactic Structure (3)
- 第 5 週 Diagnostics for Syntactic Structure (4)
- 第 6 週 Lexical Projections and Functional Projections (1)
- 第 7 週 Lexical Projections and Functional Projections (2)
- 第 8 週 Lexical Projections and Functional Projections (3)
- 第 9 週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (1)
- 第 10 週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (2)
- 第 11 週 Refining Structures : From One Subject Position to Many (3)
- 第 12 週 The Periphery of the Sentence (1)
- 第 13 週 The Periphery of the Sentence (2)
- 第 14 週 The Periphery of the Sentence (3)
- 第 15 週 The Periphery of the Sentence (4)
- 第 16 週 学期のまとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

Haegeman, Liliane (2006) *Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation and Analysis*. Blackwell Publishing.

【主要参考文献】

北川義久・上山あゆみ(2004)『生成文法の考え方』東京：研究社出版
他、適宜授業中に紹介する。

5. 準備学習

毎回の授業でテキストの担当範囲を決め、内容を要約し問題点を指摘するので、予め準備しておく。

6. 成績評価の方法

クラスでのプレゼンテーション 50点
 期末報告レポート（この学期で学んだ内容をまとめ、問題点を指摘する） 50点
 合計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	第2言語習得特論			担当教員：渡慶次 正則	
科目名(英語)	Second Language Acquisition Theory			メールアドレス：tokeshizemi@hotmail.co.jp 研究室電話番号：0980-51-1235	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1.2	後期	10	研 512	月曜日 6 時限

1. 授業の概要

過去の研究成果から次の点を学ぶ。

- (1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか
- (2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。
- (3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。

2. 到達目標

英語学習者の習得についての基本的な理論や研究成果を理解できる。

3. 授業の計画と内容

- | | |
|------|---|
| 第1週 | オリエンテーション、登録、言語教授法と第2言語習得の歴史 |
| 第2週 | Second Language learning: key concepts and issues (Chap. 1) |
| 第3週 | The recent history of second language learning research (Chap. 2) |
| 第4週 | The recent history of second language learning research (Chap. 2) |
| 第5週 | The Universal Grammar (Chap.3) |
| 第6週 | Cognitive approaches to SLL (Chap.4) |
| 第7週 | Functional/pragmatic perspectives on SLL (Chap.5) |
| 第8週 | Input and interaction in SLL (Chap.6) |
| 第9週 | Input and interaction in SLL (Chap. 6) |
| 第10週 | Socio-cultural perspectives on SLL (Chap. 7) |
| 第11週 | Sociolinguistic perspectives (Chap.8) |
| 第12週 | Conclusion (Chap. 9) |
| 第13週 | Individual differences in SLL |
| 第14週 | Focus on form in SLL |
| 第15週 | Complexity, accuracy and fluency |

4. テキスト・参考文献

“Second Language Learning Theories” (2nd edition) Mitchell & Myles ARNOLD

5. 準備学習

テキストを事前に読んで準備をしておく。

6. 成績評価の方法

- ・講義への参加 30点
- ・課題 70点(Input, interaction, acquisition についてレポート)
- ・合計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	教育学特論			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Advanced Course of Education			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1233	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	3	研 510	火2・木3

1. 授業の概要

戦後日本の教育学研究の基礎的な文献を分析的に読み進めながら、特に、「問題・論争」となった点について受講生の「発表」を行ってもらい、それをもとに討議を行う。占領下の沖縄の教育（制度）問題も視野に入れる。

2. 到達目標

- ①戦後日本の教育学研究の知見の習得の作業を行い、基礎的な知識を学ぶ。
- ②論文作成の基礎技能である、先行研究や一次資料を活用したテキストの作成、読みを図る。

3. 授業の計画と内容（予定の変更があり得る）

- 第 1 週 ガイダンス
- 第 2 週 戦後教育学の論争課題①
- 第 3 週 戦後教育学の論争課題②
- 第 4 週 教育学の文献紹介①
- 第 5 週 教育学の文献紹介②
- 第 6 週 沖縄の教育史①
- 第 7 週 沖縄の教育史②
- 第 8 週 教育学の文献を読む（受講生の発表①）
- 第 9 週 教育学の文献を読む（受講生の発表②）
- 第 10 週 教育学の文献を読む（受講生の発表③）
- 第 11 週 教育学の文献を読む（受講生の発表④）
- 第 12 週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑤）
- 第 13 週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑥）
- 第 14 週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑦）
- 第 15 週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑧）
- 第 16 週 教育学の文献を読む（受講生の発表⑨）及び最終レポート提出

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

なし（適宜資料を配布する）

【参考文献】

適宜指示する。

5. 準備学習

「発表」する学生は事前にレジユメを準備する。他の学生も事前に文献を読み、積極的に討議に参加する。

6. 成績評価の方法

活動状況： 70 点
レポート： 30 点
合 計：100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	比較教育文化思想特論			担当教員：嘉納 英明	
科目名(英語)	Comparative Education			メールアドレス：kano@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1560	
単位数	受講年次	開講予定学期	受講予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	3	研 510	月曜日 10:30～12:00 火曜日 10:30～12:00

1. 授業の概要

本授業では、人間の成長・発達に大きな影響を及ぼす教育的営みについて考える。教育という営みは、社会全体の諸事象と密接に関わるものであるから、授業の内容は、まず現代に至るまでの社会における子ども観の変容を概観する。次に、近代の公教育確立以降の教育制度改革と教育権利論、生涯学習社会の到来を導いたラングランの思想を読み解き、今後の日本教育の進むべき方向を考える。

2. 到達目標

- ①子ども観の変容の過程について理解することができる。
- ②公教育制度の成り立ちやそれに関わる教育思想について理解することができる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 人間形成と教育、人間とは何か、教育の目的
- 第 3 週 子どもの発見—ルソーの『エミール』—
- 第 4 週 現代教育の思想—新教育運動の起こり—
- 第 5 週 教育改革への志向—デューイ—
- 第 6 週 近代教育に対する批判的まなざし—イリッチとフレイレ—
- 第 7 週 小さな大人から子どもへ—アリエスの『<子供>の誕生』—
- 第 8 週 近代公教育と義務教育制度
- 第 9 週 教育の義務から教育を受ける権利へ
- 第 10 週 義務教育制度の今日的課題—通学区域の弾力化—
- 第 11 週 学校選択制と教育バウチャー制度
- 第 12 週 堀尾輝久『現代教育の思想と構造』を読む
- 第 13 週 生涯学習社会に向けて—ラングラン—
- 第 14 週 現在日本における生涯学習社会と学習機会
- 第 15 週 学期末試験

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特定のテキストはない。ただし、毎回、資料（学術論文等を含む）を配布する。

【参考文献】

参考文献は、授業の内容に応じて、適宜、紹介する。

5. 準備学習

講義の中で扱う文献は事前に配付するので、熟読しておくこと。

6. 成績評価の方法

- | | |
|---------------------|--------|
| ①関連する文献の読み取り、討論への参加 | 20点 |
| ②講義内容に関するレポート | 30点 |
| ③学期末試験の結果 | 50点 |
| | 合計100点 |

7. 履修の条件

- ①学群・学部の教職科目を複数履修していることが望ましい。
- ②日本や沖縄の教育、歴史、文化に対して関心を持つ者を歓迎する。

8. その他

自己の教育体験・教育事情を紹介してもらい、講義内容と重ねて議論することもあります。

科目名	東南アジア文化特論			担当教員:	
科目名(英語)	Seminar on SEA culture			メールアドレス:	
				研究室電話番号:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2		10		

1. 授業の概要

東南アジアを中心にアジアの文化事象について論じる。文化事象のどの部分に焦点を当てるかは受講者の興味関心による。当面は、言語を使った表現、詩、演劇、芸能などを扱う。「読む文学」というより「聞く文学」「語る文学」「見る文学」であるから、毎回必ず視聴覚教材を使う。もちろん、参加学生の興味と研究上の必要から、話し合っただけのテーマを選択することもある。

2. 到達目標

アジアの文学や演劇、音楽などについて総合的な知識を養い、比較・鑑賞できる素地を作る。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 東アジアの芸能について
- 第3週 古代の芸能（雅楽、神楽、祝詞、記紀歌謡）
- 第4週 中世の芸能（能、狂言、万歳、声明、念仏、平曲）
- 第5週 武家の芸能（謡曲、箏曲）
- 第6週 町人の芸能（歌舞伎、常磐津、清元、長唄、新内）
- 第7週 朝鮮、満州、モンゴルの芸能
- 第8週 中国の芸能
- 第9週 タイの詩文と芸能
- 第10週 ベトナムの詩文と芸能
- 第11週 マレー世界の詩文と芸能
- 第12週 台湾・ポリネシアの詩文と芸能
- 第13週 インド・イランの言語芸術
- 第14週 スリランカ、ネパールの詩文と芸能
- 第15週 まとめ

4. テキスト・参考文献

プリントを用意する。音源や映像資料は講師が用意する。
参考文献がある場合はその都度指示する。年表と地図帳を手元に用意してください。

5. 準備学習

特になし。

6. 成績評価の方法

授業への参加度 30点
発表・レポート 50点
ノート 20点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

受講者の専門分野や研究テーマに利益となるような内容にする。積極的に自分の研究と関連させて理解を深めてほしい。楽しい時間になりたいと考えている。

科目名	中南米文化特論			担当教員：住江 淳司	
科目名(英語)	Latin-American Cultures			メールアドレス：j.sumie@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1228	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 505	火曜日 10:30～12:10 木曜日 10:30～12:10

1. 授業の概要

ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。

2. 到達目標

修士論文を執筆する上で、中南米に関する基本的な知識の取得を到達目標とする。

3. 講義予定

- 第 1 週 講義概要の説明
- 第 2 週 ラテンアメリカの自然と人
- 第 3 週 ラテンアメリカの開発体制
- 第 4 週 ラテンアメリカの政治と民主化
- 第 5 週 輸入代替工業化とインフレーション
- 第 6 週 対外債務累積問題
- 第 7 週 ラテンアメリカの土地制度
- 第 8 週 労働市場の二重化とインフォーマル・セクター
- 第 9 週 ラテンアメリカの所得分配
- 第 10 週 工業化と都市化による社会生活の変化
- 第 11 週 社会格差とスラム問題
- 第 12 週 カトリック教会と解放の神学
- 第 13 週 悪化する都市環境
- 第 14 週 小さな政府（民主化と地方分権化）
- 第 15 週 ネオリベラリズム

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

小池洋一著 『図説ラテンアメリカ』, 日本評論社, 1999年。

【参考文献】

国本伊代・中川文雄編著 『ラテンアメリカ研究への招待』, 新評論, 1997年。

5. 準備学習

事前に、図書館で中南米に関する基本的文献をレファレンスコーナーで最低 10 冊探し熟読する。

6. 評価方法

期末試験	70点
レポート	30点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	日本古典文学特論			担当教員：小番 達	
科目名(英語)	Japanese Classical Literature			メールアドレス：t.kotsugai@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1212	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 504	火曜・木曜 4 限目

1. 授業の概要

『平家物語』の注釈的作業を通して、本文分析・批評、受容と享受、資料調査など古典文学研究の基礎的な方法を修得する。また、歴史や思想史など近接学問領域の研究成果にも学びながら、中世文化の体系、とりわけ〈知〉の体系の一端を把握する。

2. 到達目標

- ① 『平家物語』の特質、文学史的な位置づけを理解し、説明できる。
- ② 『平家物語』に関連する作品・資料の内容を理解し、説明できる。
- ③ 『平家物語』が成立・展開した時代の位相を概括的に理解し、説明できる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション（報告要領の説明、報告箇所の分担・順番決めなど）
- 第 2 週 『平家物語』概説（1）：中世文学の概要
- 第 3 週 『平家物語』概説（2）：成立・作者
- 第 4 週 『平家物語』概説（3）：諸本
- 第 5 週 報告（1）
- 第 6 週 報告（2）
- 第 7 週 報告（3）
- 第 8 週 報告（4）
- 第 9 週 報告（5）
- 第 10 週 報告（6）
- 第 11 週 報告（7）
- 第 12 週 報告（8）
- 第 13 週 報告（9）
- 第 14 週 報告（10）
- 第 15 週 総括

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配付する。

【参考文献】

新日本古典文学大系『平家物語 上・下』岩波書店、『延慶本平家物語全注釈 第一～（刊行中）』汲古書院

*購入する必要なし

5. 準備学習

報告資料の作成。

6. 成績評価の方法

報告内容 50 点

レポート 50 点

合 計 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

授業の計画と内容は状況に応じて変更することがある。

科目名	日本近代文学特論			担当教員：小嶋 洋輔	
科目名(英語)	Japanese Modern Literature			メールアドレス：y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 415	木3・金2

1. 授業の概要

日本近現代文学、とくに第二次世界大戦後の文学における「代表作」（本講義では短篇＝芥川賞受賞作中心）を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、作品の一字一文字を読む「方法」を知る。小説作品とは書かれた同時代社会の問題が色濃く表れているものであり、社会制度の変遷を小説から読み解くこともその目的とする。具体的には、扱う作品に対して「発表」を行ってもらい、それをもとにして討議を行うものである。

2. 教育目標

- ①文化交流に役立つ知識の習得の作業といえる、日本近現代文学を読むうえでの基礎的な知識を学ぶ
- ②論文作成の基礎技能である、先行研究や資料を活用したテキストの読みができる。

3. 授業の計画と内容（予定の変更があり得る）

- 第 1 週 ガイダンス
- 第 2 週 「近代」の「文学」ということ
- 第 3 週 文学史まとめ
- 第 4 週 扱う小説とその時代：概説①
- 第 5 週 扱う小説とその時代：概説②
- 第 6 週 太宰治と戦争
- 第 7 週 太宰治と戦後
- 第 8 週 戦後文学を読む（受講生発表）①
- 第 9 週 戦後文学を読む（受講生発表）②
- 第 10 週 戦後文学を読む（受講生発表）③
- 第 11 週 戦後文学を読む（受講生発表）④
- 第 12 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑤
- 第 13 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑥
- 第 14 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑦
- 第 15 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑧
- 第 16 週 戦後文学を読む（受講生発表）⑨及びレポート提出

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

なし（適宜プリントなどを配付する）。

【参考文献】

なし（適宜プリントなどを配付する）。

5. 準備学習

「発表」する担当者以外の学生も必ず小説作品を読み、積極的に討議に参加してもらう必要がある。

6. 成績評価の方法

活動状況： 70 点

レポート： 30 点

合 計：100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	日本史特論			担当教員：屋良 健一郎									
科目名(英語)	Japanese History			メールアドレス：k.yara@meio-u.ac.jp									
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー								
2	1・2	後期	5	研 402	水 2, 木 3								
<p>1. 授業の概要</p> <p>日本史を学ぶ上で重要なことは、史料を読解すること、史料に基づいて思考することである。この講義では、史料をどのように読み、どのような史実（あるいは仮説）を導き出せるのかを考える。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>①前近代の史料の読み方を学ぶ。 ②史料に基づいて思考する力を身につける。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 ガイダンス</p> <p>第 2 週 古代の文書を読む ―律令国家の仕組み―</p> <p>第 3 週 貴族の日記を読む ―平安時代の社会―</p> <p>第 4 週 鎌倉時代の文書を読む ―将軍と御家人―</p> <p>第 5 週 室町時代の文書を読む ―将軍と守護大名―</p> <p>第 6 週 戦国大名の文書を読む ―領国支配の仕組み―</p> <p>第 7 週 江戸時代の文書を読む① ―幕府と朝廷―</p> <p>第 8 週 江戸時代の文書を読む② ―百姓の暮らし― / 中間試験</p> <p>第 9 週 中国・朝鮮の史料を読む ―外国人が見た日本―</p> <p>第 10 週 古地図を読む ―前近代の国境―</p> <p>第 11 週 歴史書を読む ―後世の人々は歴史をどう記したか― ① 『島津国史』と嘉吉附庸論</p> <p>第 12 週 歴史書を読む ―後世の人々は歴史をどう記したか― ② 『中山世鑑』と三山時代</p> <p>第 13 週 系図・家譜を読む ―先祖はどう語られたか―</p> <p>第 14 週 偽文書を読む ―なぜ「歴史」は作られなくてはならなかったのか―</p> <p>第 15 週 まとめ ―様々な史料との向き合い方―</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特になし（プリントを配布する）。</p> <p>【参考文献】 講義中に随時紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>翌週の講義で扱う内容をテキストや随時紹介する参考文献を読んで予習しておくこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>活動状況</td> <td>30 点</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>30 点</td> </tr> <tr> <td>タームペーパー</td> <td>40 点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100 点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						活動状況	30 点	中間試験	30 点	タームペーパー	40 点	合計	100 点
活動状況	30 点												
中間試験	30 点												
タームペーパー	40 点												
合計	100 点												

科目名	沖縄地域文化研究特論			担当教員：照屋 理	
科目名(英語)	Special Issues Culture Studies of Okinawa			メールアドレス：m.teruya@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1231	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 508	火・木1限

1. 授業の概要

現在、沖縄の伝統文化として三線音楽や琉球舞踊、ハーリー（疍龍舟）やエイサーなどがよく挙げられる。本島北部地域では、安田のシヌグ、塩屋のウンガミ、各地のウシデークなどといった無形民俗文化財が挙げられよう。これらは実は近世あるいはそれ以前の古琉球期における農耕、漁撈、航海等に関わる儀礼もしくは派生した文化とされる。

古琉球・近世期から続く文化が多く散見される現代沖縄・奄美諸島地域を研究するに重要なアプローチの一つとして、各地で伝承されている古謡や民謡・まじない、説話（伝説やむかし話）などの口頭伝承の解析、あるいはムラ芝居や儀礼舞踊などの民俗芸能の解析がある。古琉球・近世期における人々の様々な活動や心情を活写した口頭伝承や民俗事象を読み解くことなしには、そこから今につながる現代沖縄の地域文化研究は覚束ないものとなる。

本特論では、特に沖縄本島北部地域の口頭伝承および民俗事象に焦点を当て、底流する地域の諸相を汲み上げる為の基本的な分析方法を身につけることを目指す。なお、受講生には主体性を求める。

2. 到達目標

沖縄本島北部をはじめ琉球文化圏における口頭伝承群について、解釈の手助けとして各種方言辞典や論考等を読みこなす力、および伝承や民俗事象等から様々な情報を汲み上げ分析する方法を身につけることを目標とする。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 登録・オリエンテーション
- 第 2 週 研究基礎事項の確認①（琉球文化・言語史概説 1）
- 第 3 週 研究基礎事項の確認②（琉球文化・言語史概説 2）
- 第 4 週 研究基礎事項の確認③（口頭伝承および民俗事象概説 1）
- 第 5 週 研究基礎事項の確認④（口頭伝承および民俗事象概説 2）
- 第 6 週 琉球・沖縄地域文化研究方法論①（モチーフ・パラレリズム 1）
- 第 7 週 琉球・沖縄地域文化研究方法論②（モチーフ・パラレリズム 2）
- 第 8 週 琉球・沖縄地域文化研究方法論③（モチーフ・パラレリズム 3）
- 第 9 週 研究各論（受講生発表）①
- 第 10 週 研究各論（受講生発表）②
- 第 11 週 研究各論（受講生発表）③
- 第 12 週 研究各論（受講生発表）④
- 第 13 週 研究各論（受講生発表）⑤
- 第 14 週 研究各論（受講生発表）⑥
- 第 15 週 研究各論（受講生発表）⑦
- 第 16 週 研究各論（受講生発表）⑧&レポート提出

4. テキスト・参考文献

適宜指示する。

5. 準備学習

参考文献を事前に読むこと。

6. 成績評価の方法

活動状況 50点
課題レポート 50点
合計 100点

7. 履修の条件

担当教員は特論科目を大学院において本格的な研究方法等を身につける科目と考えている。受講生には徹底的な事前学習・調査を求める。またフィールドワークを課す場合がある。

8. その他

特になし

科目名	琉球歴史学特論			担当教員:	
科目名(英語)	Ryukyu History			メールアドレス:	
				研究室電話番号:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2				

1. 授業の概要

琉球王国は、日本の歴史の中の地域史として位置づけることは出来ない。

東アジア全域にわたって交易した独立国家であった。この講義では、中国をはじめとする東アジア全域との交易の歴史を、「歴代宝案」という外交文書を解読しながら理解する方法をとる。

2. 到達目標

琉球王国が東アジア全域にわたって平和外交を行っていたことを理解することによって、今に生きる私達に教訓として学びとり、世界に向けて活躍する人材になってほしいことを目標とする。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 東アジアにおける琉球王国の位置
- 第 2 週 琉球王国大交易時代の意義と課題
- 第 3 週 「万国津梁之鐘」から見た琉球王国
- 第 4 週 琉球王国と中国との交流 (朝貢)・・・①
- 第 5 週 " " ②
- 第 6 週 " " ③
- 第 7 週 " " ④
- 第 8 週 琉球王国と朝鮮との交流 ①
- 第 9 週 " " ②
- 第10週 琉球王国とシャム (タイ国) との交流.....①
- 第11週 " " ②
- 第12週 " " ③
- 第13週 琉球王国とジャワとの交流
- 第14週 琉球王国とマラッカとの交流
- 第15週 琉球王国と安南 (ヴェトナム) との交流

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

原史料等をプリントして配布する。特に外交文書の歴代宝案をコピーする。

【参考文献】

特になし。講義の中で紹介する。

5. 準備学習

琉球王国の東アジア交易関係を理解しておくこと。

6. 成績評価の方法

発表 (30 点) + ディスカッション (30 点) + 課題レポート (40 点) = 合計 100 点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	琉球文学特論			担当教員：照屋 理	
科目名(英語)	Ryukyu Literature			メールアドレス：m.teruya@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1231	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 508	火・木1限

1. 授業の概要

琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域、琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ（『おもろさうし』）に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。

本特論では、いわゆる日本文学とは異なる琉球文学の特徴や広く文学の普遍性について追究し、最終的には受講生の足元を掘り下げる試みを行う。なお、受講生には主体性を求める。

2. 到達目標

- ①琉球文学の独特の発想法・表現法について追究する方法を身につける。
- ②琉球文学の研究を通して、文学の誕生、展開について追究する方法を身につける。
- ③琉球文学の研究を通して、古琉球人の神概念、世界観について追究する方法を身につける。
- ④琉球文学の研究を通して、沖縄語・方言の成立過程について追究する方法を身につける。
- ⑤琉球文学の研究を通して、“文学”の普遍性について追究する方法を身につける。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 登録とオリエンテーション
- 第 2 週 琉球語の特質（オモロ及び南島歌謡研究のための基礎的事項の確認）
- 第 3 週 琉球文学の全体像について、基礎的理解と研究の方法を学ぶ。
- 第 4 週 琉球文学研究の歴史的背景
- 第 5 週 琉球文学の成立とさまざまジャンルの概要
- 第 6 週 琉球文学の表記・表現法①
- 第 7 週 琉球文学の表記・表現法②
- 第 8 週 琉球文学のモチーフの展開
- 第 9 週 研究各論（受講生発表）①
- 第 10 週 研究各論（受講生発表）②
- 第 11 週 研究各論（受講生発表）③
- 第 12 週 研究各論（受講生発表）④
- 第 13 週 研究各論（受講生発表）⑤
- 第 14 週 研究各論（受講生発表）⑥
- 第 15 週 研究各論（受講生発表）⑦
- 第 16 週 研究各論（受講生発表）⑧&レポート提出

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

『新編 沖縄の文学』（波照間永吉監修 高教組教育資料センター発行）＊購入する必要はない。

5. 準備学習

参考文献を事前に読むこと。

6. 成績評価の方法

活動状況 50点
課題レポート 50点 計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目番号	科目名	中琉関係史基礎特論		担当教員： 赤嶺 守	
	科目名（英語）	The History of Sino-Ryukyu Relations		E-mail:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1				
1. 授業の概要					
琉球・沖縄の歴史的なターニングポイントは、同時に東アジア社会全体の構造的変動というターニングポイントに重なっている。授業では、そうした東アジア社会の一員としての琉球・沖縄社会における歴史的諸相を詳しく考察する。					
2. 到達目標					
東アジアにおけるコーナーストーンとしての琉球・沖縄の歴史的な位置づけについて理解を深める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 Introduction : 中国琉球関係史研究序論					
第2週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第3週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第4週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第5週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第6週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第7週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第8週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第9週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第10週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第11週 期末研究論文テーマの設定及び学術意義・独創性の検討					
第12週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第13週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第14週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第15週 期末研究論文の最終討論					
4. テキスト					
参考文献：内容が多岐にわたるので、担当教員が授業の前に必要な文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
紹介された授業に関わる文献を受講前に一通り目を通しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（報告、討論等）によって評価する。					
7. 履修の条件					
基礎一次史料については、多くが漢文史料であることから、それを読み込む一定の読解力を有すること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	琉球・沖縄文化特論序説		担当教員：波照間 永吉	
	科目名(英語)			Email:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1				
1. 授業の概要					
<p>琉球語を母語とする奄美・沖縄・宮古・八重山地域は“琉球文化圏”と呼ばれ、歴史的に、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との交流によって、個性的な文化を育んできた。例えば、この地域には、ニライカナイ（海の彼方の万物の淵源の地）という海上他界の観念があるが、同時に、オボツカグラなどの天上他界観もある。さらには地下他界観を有する地域もあり、現実的にはこれらが重層しているといえる。これらの他界観を元に御嶽信仰と呼ばれる固有信仰が発達しているわけであるが、これらの他界観と固有信仰・民俗文化がどのように展開しているかを見定めることは、琉球・沖縄文化と日本および周辺地域の文化との比較研究のために不可欠なことである。本講座では、これら琉球文化圏で創造・享受されてきた文学（首里王府編『おもろさうし』〈1531～1623〉など）を素材として、この地域の人々が有する他界観・神観念などの民俗文化と想念世界について考えていく。</p>					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・講義で使用する『おもろさうし』や『琉球国由来記』、「(琉球国) 碑文記」など、琉球国時代の文献・金石文資料を読むこととおして、古琉球以来の沖縄文化の基層にある問題について考える力を養う。 ・祭祀を実際に見学する機会を積極的にもち、琉球・沖縄の祭祀文化の基本的な構造や特徴を理解するとともに、その社会的意味についても考える力をつける。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週	講義の進め方、学習方法について説明。本講座に使う資料について説明する。				
第2週	琉球・沖縄における祭祀と文芸（琉球文化圏の固有信仰に、特に、御嶽、神女組織などについて概説する）。				
第3週	『おもろさうし』概説				
第4週	オモロ解読法について①				
第5週	オモロ解読法について②				
第6週	『おもろさうし』に現れた固有信仰①(御嶽)				
第7週	『おもろさうし』に現れた固有信仰②(神)				
第8週	『おもろさうし』に現れた固有信仰③(他界観)				
第9週	『おもろさうし』に現れた固有信仰④(ヲナリ神・女神)				
第10週	『おもろさうし』に現れた固有信仰⑤(ヲナリ神・女神)				
第11週	『おもろさうし』に現れた固有信仰⑥(王府の神女組織)				
第12週	『おもろさうし』の憑霊表現①				
第13週	『おもろさうし』の中の憑霊表現②				
第14週	碑文とオモロからみる古琉球の王府祭儀				
第15週	『おもろさうし』や碑文などからみる古琉球の宗教的世界				
4. テキスト					
【テキスト】					
外間守善『校注おもろさうし』（2000年・岩波書店）					
【参考文献】					
外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』（1997年・角川書店）、外間守善『沖縄の神歌』（1994年・中公文庫）、比嘉康雄『神々の古層』（写真集・全12巻）（1990年～1994年・ニライ社）、比嘉康雄『沖縄 久高島』（1997年・第一書房）、沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店）、玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）、外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）、玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房）					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に講師（波照間永吉）の既発表論文などによって事前の学習をすること。地域における伝統的祭祀について可能な限り実地に観察する。					
6. 成績評価の方法					
講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。講義の取り組み（報告、討論等）など平常の受講態度についても評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。但し、テキストの準備は万全であること。また、事前学習を十全に行うこと。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	琉球精神文化特論		担当教員：山里 純一	
	科目名(英語)			Email:	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1				
1. 授業の概要					
<p>南島（奄美・沖縄）の民俗文化について、まじない、星と風、信仰習俗などを主たるテーマとして取り上げる。特有の精神風土に根ざしたまじない習俗について、文献史料の発掘とフィールドワークの成果を活かし、中国・日本との比較も視野に入れながら考察する。また南島の地理的環境がもたらす天文・自然と人々の暮らしについて、さらに中国・日本などの外来文化が受容され独自の展開を見せる民俗文化についても見ていく。</p>					
2. 到達目標					
<p>日本本土と違った南島社会の民俗文化の有り様について知識を深める。 固有の文化と外来文化が織りなす南島の民俗文化について理解する。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 オリエンテーション - 南島の民俗文化 - 第2週 呪文と呪歌 第3週 呪物と様態 第4週 文字の呪力と呪符木簡 第5週 沖縄のフーフダ（符札）① 種類と機能 第6週 沖縄のフーフダ② 起源と変容 第7週 まじないと民俗① 人生儀礼をめぐるまじない 第8週 まじないと民俗② 建築儀礼とまじない 第9週 まじないと民俗③ 自然とまじない 第10週 星と人々の暮らし① 北斗信仰 第11週 星と人々の暮らし② 農業と星 第12週 風の用語と伝承 第13週 天文知識と風の関係 第14週 外来の神々と信仰習俗 第15週 『四本堂家礼』と沖縄の民俗</p>					
4. テキスト					
<p>参考文献：山里純一『沖縄のまじない』（ポードアインク、2017）、山里純一『呪符の文化史 - 習俗に見る沖縄の精神文化』（三弥井書店、2004）、山里純一「沖縄における星の信仰」『沖縄民俗研究』34号、窪徳忠『中国文化と南島』（第一書房、1981）、窪徳忠『目でみる沖縄の民俗とそのルーツ』（沖縄出版、1990）、花部英雄『まじないの文化誌』（三弥井書店、2014）</p>					
5. 準備学習					
<p>参考文献に目を通しておく。</p>					
6. 成績評価の方法					
<p>レポートと授業への取り組み（報告、討論等）によって評価する。 レポート（70%） 授業への取り組み（30%）</p>					
7. 履修の条件					
<p>なし</p>					
8. その他					
<p>講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。</p>					

class	class	言語文化特別講義 II			担当教員 : Meghan Kuckelman Beverage	
	科目名 (英語)	Special Lecture on Language and Culture			E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
					404	Tu 4 Th 3

Class content

This course will focus on 20th and 21st century American poetry. Part of the course will explore the texts and contexts associated with the Modernism of the early 20th century, with attention to different avant-garde poetics, World War I verse, and poetry out of the Harlem Renaissance. In the Post-War (WWII) poetry, attention will be given to the role of the subject, as the confessional "I" and the language-dependent subject of the Language Poets. In the 21st century, the situated, intersectional, identity-based poetic subject will be considered, along with new forms of online and media-based poetry.

Class objectives

- Students will be able to identify and articulate differences in poetic forms across the 20th century.
- Students will be able to articulate connections between form, language, and poetic subject.
- Students will use research to craft an original thesis about a poet's work and present that thesis in both spoken and written form.

Class schedule

Class 1: Introductions

Class 2: The Avant-Garde—Imagism, Futurism, Surrealism

Class 3-5: 1922-1923—Williams, Eliot, and Pound

Class 6-7: Alternatives—Gertrude Stein

Class 7-8: The Harlem Renaissance—Langston Hughes, Claude McKay

Class 9-10: The Evolving I—Elizabeth Bishop, Allen Ginsberg, Sylvia Plath, and Phyllis Webb

Class 11: The Death of the Author—Language Poetry

Class 12-13: The Situated Subject—Fatimah Asghar, Julia Alvarez, Dennis Etzel

Class 14-15: Writing Conferences

Class 16: Conclusions

Textbook

Dennis Etzel, *Sum of Two Mothers*, ¥1555 at amazon.co.jp

Other texts will be photocopied by the instructor.

Assessment

Participation 30 points

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day's discussion

Conference Style Presentation 30 points

- Students will each give a 15-minute presentation about any text from Class 7-Class 13. The presentation should offer an interpretation of the text based on research of 1-2 secondary texts. The student should outline the researched text and apply it to the primary text in order to make the interpretation.

Conference Paper 40 points

- Students will revise the conference presentation, using the ensuing discussion and comments, into a 10-page Conference Paper.

Total: 100 points

Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should be comfortable with written and spoken English communication.